

## メディアセンターによる企画展示

## 第34回 慶應義塾図書館貴重書展示会

## 文人の書と書物―江戸時代の漢詩文に遊ぶ―

内容：江戸時代に儒学を学び、その知識を社会に役立てようと政治や学問に携わる一方、漢詩・書画などの文学・芸術の分野でも活躍した「文人」とよばれる儒学者・漢詩人に焦点をあて、彼らの自筆著作や筆跡類を展示した。対象とした文人は、江戸時代の林羅山に始まり、新井白石、荻生徂徠、中根東里、亀井家、古賀家、山梨稲川、安井家、近代の森鷗外、永井荷風にまで及んだ。全体を9部に分けて、自筆本や刊本、日記、書簡、拓本に至るまで様々な形態の資料を約60点展示し、その資料的価値の高さと内容の豊かさを多くの来場者に楽しんでもらうことができた。慶應義塾図書館では伝統的に儒学者に関する資料を戦前より蒐集してきたが、本展示では学内附属研究所の斯道文庫や日吉図書館、北里記念医学図書館の蔵書も加え、学内の垣根を超えた展示会となった。また、関連パネルの参考図版については多数の学外機関から画像提供の協力を得た。

監修者のギャラリートークは、昨年度に続き新型コロナウイルス感染症予防対策のため、参加人数を限定した事前Web予約制で2回開催し、どちらも多数の参加があった。（期間中の来場者は1,207名）

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社

協力：慶應義塾大学附属研究所斯道文庫

会期：2022年10月5日（水）～11日（火） 会場：丸善・丸の内本店4階ギャラリー

ギャラリートーク：10月7日（金）18時～、9日（日）14時～ 両日とも堀川貴司（斯道文庫長・教授）



ギャラリートーク（堀川教授・展示監修者）



会場入口に展示された大蔵一覽集



古賀侗庵・阿琴の墓碑銘拓本と墓碑の写真パネル